

21世紀に  
伝えたいの魅力 No.17

# ちば

船の安全を守り続ける  
野島崎灯台



白浜町

白波にあらがうかのように太平洋に突き出た野島崎の岩礁に立つ灯台

# 灯台の灯はどこまでとどくの？



直径約2mのレンズから発する120万カンデラの光で夜を照らします。県内では犬吠埼灯台とともに「日本の灯台50選」に選ばれました

北緯34度54分、東経139度54分、房総半島最南端に立つ野島崎灯台は白浜町のシンボルです。高さは29m、太平洋の強い潮風を受け、八角形の白い姿を陽光に輝かせています。77段のらせん階段を登って展望台に出れば、伊豆諸島が間近に望めます。灯台の周辺はヤシやアロエなど南国の植物が植えられた公園になっていて、磯辺の遊歩道を歩けばミレニアム記念のトビウオ像、最南端の碑、野外アート作品が置かれています。岬からは海からの朝日と海に沈む夕

ユメメント  
21世紀へ飛翔する願いを込め、金に輝くトビウオのモニ



日が両方見られます。

野島崎灯台の初点灯は1869年(明治2)。初めは木造櫓やぐらの仮設灯台でした

がレンガ造の洋式灯台がまもなく完成。外洋から東京湾へ向かう航路の重要ポイントとして同時期に造られた観音崎、品川、城ヶ島の各灯台と同じフランス人技師、フランソワ・レオンス・ヴェルニーが設計しました。西欧諸国の技術を導入した洋式灯台の先駆け、文明開化の灯となりました。大正12年の関東大震災で倒壊した後に再建されたのが現在の灯台です。昨年、耐震改修工事も完了しました。

ところで昼間はどの灯台なのか容易に判断できませんが、夜間はどうか識別するのでしょうか。各灯台固有の灯色や発光周期があって、野島崎灯台は20秒ごとに1閃光。明るさは120万カンデラ(40ワット電球の24000倍の明るさ)で、17海里(約31km)先

までとどきます。フルネル式レンズで光源となる電球の光の方向や光力を増大させ、レンズごと回転させています。最大光度日本一は、犬吠埼灯台や足摺岬灯台など7基あり、200万カンデラです。光の到達距離では余部崎灯台の約73kmが日本一。漁港などの防波堤に設置されている「防



初代の灯台で使われていたものと同形のレンズ。灯台下の資料館「きらりん館」に展示されています

波堤灯台」は港の奥に向かって左側は白、右側が赤に塗られています。一般の灯台も左側は白または緑の光、右側は赤い光と決められていて、安全な航海ができます。

全国の灯台は3297基(平成13年4月現在)。航路標識には灯台のほかにも灯標、灯浮標、照射灯、導灯、指向灯などさまざまな種類の「光波標識」があります。外洋や視界不良の時は電波を使った「電波標識」が大いに役立ちます。



灯台から望む伊豆半島方面。真下には磯つたいにのびる遊歩道。左上の大島までは約53km

船橋市の意富比神社(船橋大神宮)の境内には、1889年(明治22)に造られたといわれる木造3階建の燈明台(灯台の古い呼び名)が復元、保存されています。県指定の文化財です。



交通 ■ JR館山駅からバス約35分、野島崎灯台口下車徒歩5分  
見学時間 ■ 8:50~16:00(荒天の場合は休み)  
見学料 ■ 大人150円、子ども20円 ※きりりん館の入館料も含む ☎ 0470-38-3231  
★白浜町観光協会 ☎ 0470-38-4412  
H・P <http://www.awa.or.jp/home/shirahama/>

## 灯台周辺は島だったの？

房総半島南端は北からの北米プレートに南からのフィリピンプレートが沈み込む境界に近い為、巨大地震が繰り返される場所です。半島史上最大といわれる1703年の元禄地震は、野島崎の南約25kmを震源とし、マグニチュードは8.2。那古(館山市)から千倉までの沿岸は最大約6mも隆起し、小湊や保田(鋸南町)は逆に沈下しました。安房から九十九里沿岸にかけ大津波がおそい、死者5000人以上と推測されています。

白浜でも3~4m隆起し海中の小島が陸続きとなったのが野島崎です。さらに関東大

震災でも約1.5m隆起し、岬周辺に大小さまざまな岩が現れて特徴的なものには「かめ」や「ふたつじま」といった名前が付けられています。

白浜町では安房丘陵に向かって平らな土地がひな壇状になった「海岸段丘」が見られます。この地形も大地震が繰り返されてきたと考えられます。遺跡調査によれば、海岸段丘は古墳時代以降の比較的新しい陸地と推測されます。



岩礁地帯に立つ野島崎灯台。背後の丘陵地帯まで海岸段丘がみられます

### ●白浜七福神(町指定文化財)

野島崎灯台そばの巖島神社境内にあり、いずれも高さ60~70cmほどの石像。江戸時代の安房三名工の一人、武田石翁の作と伝えられています。しかし並んでいるのは6体。弁財天を祭る同神社をお参りすれば七福神詣ができます。



ユーモラスな表情で笑いをさそう七福神

## シロウリガイの化石

地殻活動の解明に迫る

野島崎の北東約1kmにある下沢海岸では世界最大級のシロウリガイの化石が発見され、1996年県の天然記念物の指定を受け、岩礁の一部が保存されています。長さ数cmの肉厚で白い貝の破片が点々と露出しています。化石が含まれている地層は300万年~350万年前のもの。

この貝は現在も深海にすむ二枚貝で、プレートがぶつかりあう所にできる溝に沿って群棲しています。こ

のため地殻運動を解明するカギになる生物として注目されています。



ほぼ完全な形で発見されたシロウリガイの化石。長さ約23cm(国立科学博物館蔵)

## 「磯笛」はどんな笛？

白浜町や御宿町は現在でも海女(海士)漁が行われていることで有名です。海面に上がった海女たちは独特の呼吸法で息を整え

松明の灯に見えかくれする海女たちの夜泳



再び潜ります。これが口笛のように聞こえるため「磯笛」と呼ばれています。初夏、アワビやサザエなどの漁が始まり、毎年7月の白浜海女まつりでは白い海女着姿の海女たちが松明を手に夜の海を泳ぎます。

1878年(明治11)白浜町根本沖で日本初の潜水器を使ったアワビ漁が行われました。ゴム製の潜水服に潜水靴をつけて潜り、船や陸からヘルメットに空気を送り込むので、当時西欧から伝わった港湾工事や船底修理用の道具が転用されました。

## のし袋の「のし」って何だろう？

祝儀を贈る際、古くはのしたアワビを添える習慣があり、やがて短冊に切って紙に包んだり、色紙で代用するようになりました。現在、のし紙やのし袋についている紙を六角形に折ったデザインはその名残です。のしたアワビを極端に図案化したものは大漁旗や万祝(魚師の祝着)などに見られます。野島崎灯台そばの白浜海洋美術館では約200枚に及ぶ万祝コレクションのほ



船に見立てて万祝の裾に描かれたのしアワビ(白浜海洋美術館蔵)

が、かつての漁のにぎわいがうかがえる美術工芸品などが展示されています。

## 潮風に花の香り◆文人と歩く早春の白浜

南房総はすでに春らんまん。ナノハナ、

キンセンカ、ポピー、ストック、

キンギョソウ・・・

海岸沿いの花畑は花ざかり。

花々を育む陽光が

打ち寄せる黒潮に輝く季節

作家ゆかりの地を訪ねるさわやか散歩へー。



波の侵食で硬い泥岩層が残り、  
屏風のように立ち並ぶ屏風岩



町内で一番多く栽培さ  
れているキンセンカ

場。オートキャンプ場も開設されて多くの海水  
浴客でにぎわいます。

### 林芙美子とめがね橋

長尾川の河口近くに架かるめがね橋(県指定  
文化財)は1888年に造られた石積みの様式三重  
橋です。関東大震災に耐えた頑強な造りで、  
「日本の名橋百選」に選ばれています。「放浪記」  
で流行作家となった林芙美子(1903~1951)は、  
1951年新聞連載の取材で野島崎灯台やめがね  
橋などを巡った時の様子を「房州白濱海岸」と  
いう紀行文に著わしています。

橋は1994年に修復工事を終え、橋の脇には  
親水公園ができています。



円形の手すりも復元され、完成当時をしのばせるめ  
がね橋。幅2.4m、長さ28.3m。車両通行止です。

### 菊池幽芳とかぶと岩

根本海岸にある関東大震災時に隆起した大岩  
は、武者のかぶとの形に似ていることから「か  
ぶと岩」と名付けられています。菊池幽芳  
(1870~1947)の長編小説「己が罪」にでてくる  
この岩はヒロイン環が産んだ異母兄弟が亡くな  
る悲運の舞台になりました。1899~1900年の  
新聞連載当時話題を呼び、劇化もされました。  
近くには県指定天然記念物の屏風岩が幅約  
100m、沖合い200mにわたって連なっています。



かぶと岩(左)とその上に立つ「己が罪」の記念碑

### 若山牧水と根本海岸

若山  
牧水  
の碑。  
三首  
が刻  
まれ  
てい  
ます

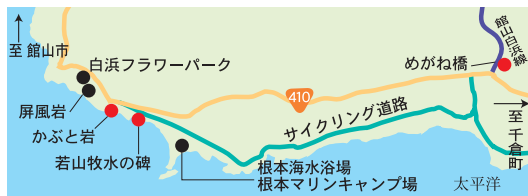


旅を愛した吟遊  
歌人・若山牧水  
(1885~1928)は  
房総各地を訪れて  
いますが、白浜に  
も2度滞在し、約  
150首の歌が生まれました。歌集「海の声」「別  
離」などに収められています。根本海岸そばの  
車道脇に歌碑が建てられています。

大島の山のけむりのいついつも

たえずさびしきわが心かな

歌碑の背後に見える白い三角州は根本海水浴



### トピックス

- 第18回南房総白浜菜の花マラソン  
3月3日 白浜町フローラルホール出発
- 野島崎海底透視船  
4~10月就航 野島崎西港発着